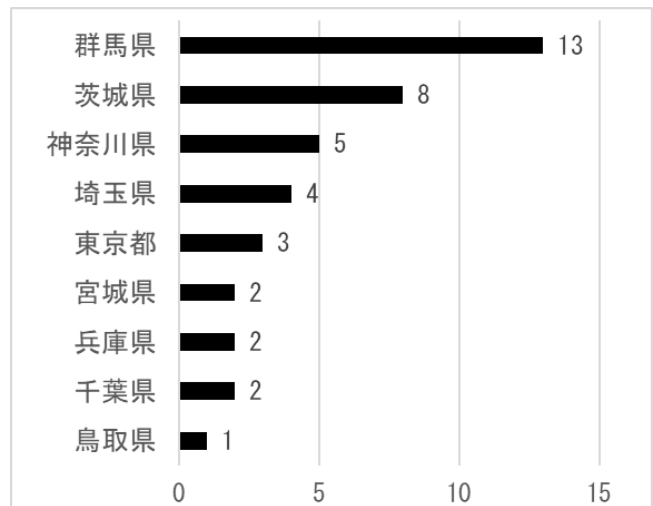


今回の調査でご回答いただいた先生方におかれましては、ご協力大変ありがとうございました。

この調査は、令和 4 年度新設科目「地理総合」の導入単元「地図や地理情報システムと現代世界」について、今年度に地理総合の担当となった先生方を対称として、1 学期間の授業の実施状況を把握するためのものです。1 学期終了後の 9 月初旬までの期間で Google Forms により実施しました。ここでは、お寄せいただいた回答をもとに考察を加え、結果報告をさせていただきます。

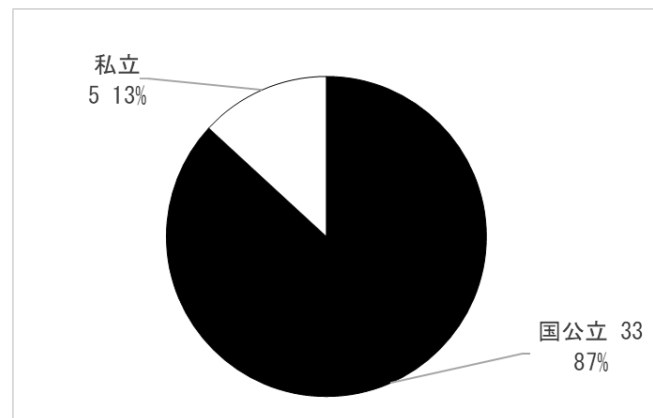
1 回答協力者と有効回答

調査は、群馬県高等学校教育研究会地理部会、埼玉県高等学校社会科教育研究会地理部会、Slack の地理教育情報共有スペースの先生方などの協力で実施しました。ご回答いただいたのは、群馬県、茨城県、神奈川県、埼玉県、東京都、宮城県、兵庫県、千葉県、鳥取県の 1 都 8 県の 40 名の先生方です。ただし、先生方のうち 2 名は、今年度、地理総合は不実施ということでしたので今回は、他の 38 名の先生方の回答をもとに結果の集約を行いました。



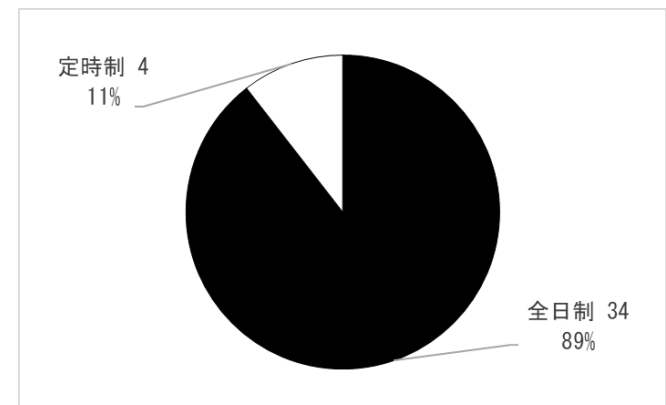
2 所属校の「校種」

先生方の「所属校の校種」の回答については、国公立 33 校(87%、国立は 1 校)、私立 5 校(13%)となっています。



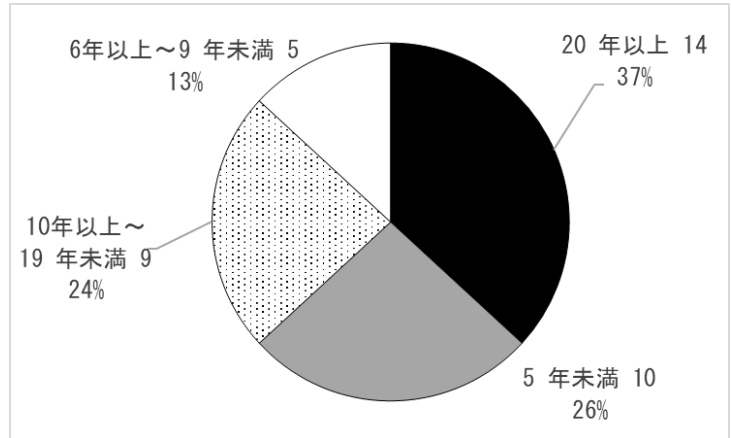
3 所属校の「課程」(Q 所属校の『課程』を教えてください)

先生方の「所属校の課程」の回答については、全日制課程 89%、定時制課程 11%となっています。調査では、全日制の先生方が回答の中心となりました。



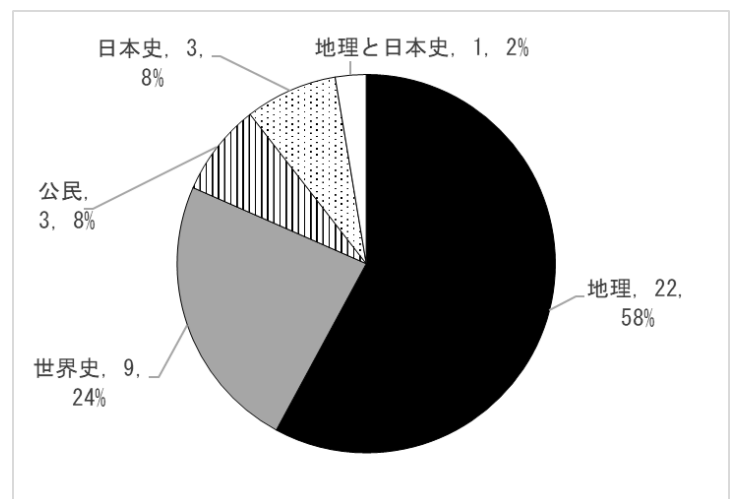
4 教職の経験年数(Q 教員としての勤務年数を教えてください)

先生方の「教職の経験年数」の回答については、6年～9年未満の先生方が若干少ないものの、ほぼすべての層が網羅されていました。



5 専門科目(Q 先生の主な専門科目を教えてください)

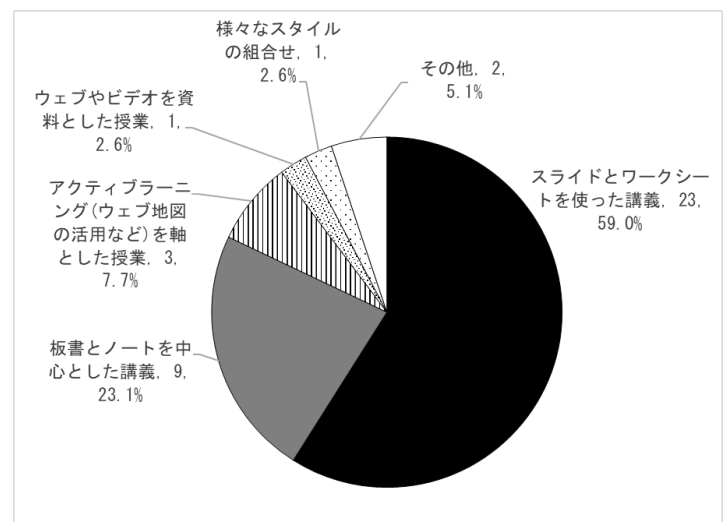
先生方の「専門科目」の回答については、「地理」が58%で最も多くなっていました。他は、「世界史」の24%をはじめ、専門外の先生方が約4割を占めていました。従前から地理総合は、地理を専門とする教員が不足しているため、専門外の先生方が担当するケースが多くなるのではと言われていましたが、実際にもそうした予想を反映した結果でした。



6 基本的な授業スタイル

(Q 地理総合の授業で、先生がとられている基本的な授業スタイルを教えてください)

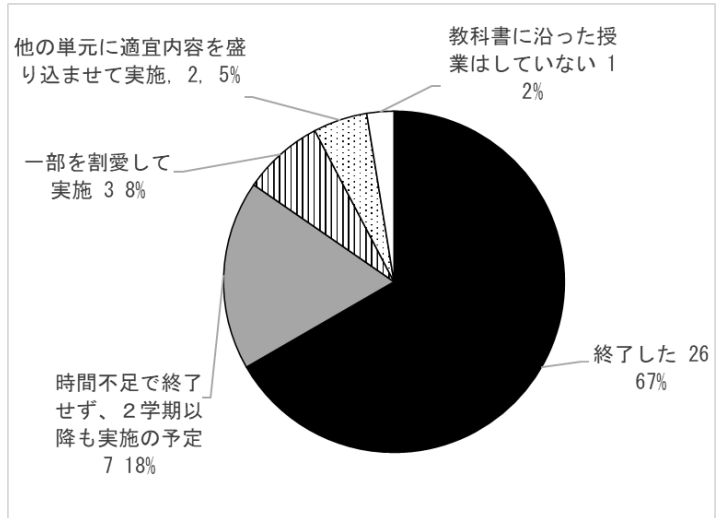
「地理総合での基本的な授業スタイル」の回答については、「スライドとワークシートを使った講義」が59%で最も多く、次いで「板書とノートを中心とした講義」が23.1%でした。これらは従来の地理A・地理Bでも取られてきた手法で、その手法がほぼ踏襲されている実態を示しています。ただ一方で、「アクティブラーニング」や「ウェブやビデオを資料とした授業」など新形態の授業スタイルをとる先生方も10%前後いました。これは、地理総合の重視する、思考力などの育成にむけて、新形態の授業スタイルを軸に対応しようとしている先生方もいることを反映しています。



7 1学期中に「導入単元」は終了したか

(Q 1学期中に、地理総合の導入単元「地図や地理情報システムと現代世界」の授業については、終了しましたか。)

「1学期中に導入単元は終了しましたか」の回答について、最も多かったのは67%の「終了した」との回答でした。次に多かったのは、18%の「時間不足で終了せず、2学期以降も実施の予定」の回答でした。他には、8%の「一部を割愛して実施」、5%の「他の単元に適宜内容を盛り込ませて実施」などの回答がありました。単元が終了しなかったり、変則的な実施となったりした先生方が3割以上いた背景には、1学期は、年度初めに各種行事があり、授業時数確保が難しい状況があることや、多くの教科書で導入単元のボリュームが比較的大きくなっていることなどがあると考えます。

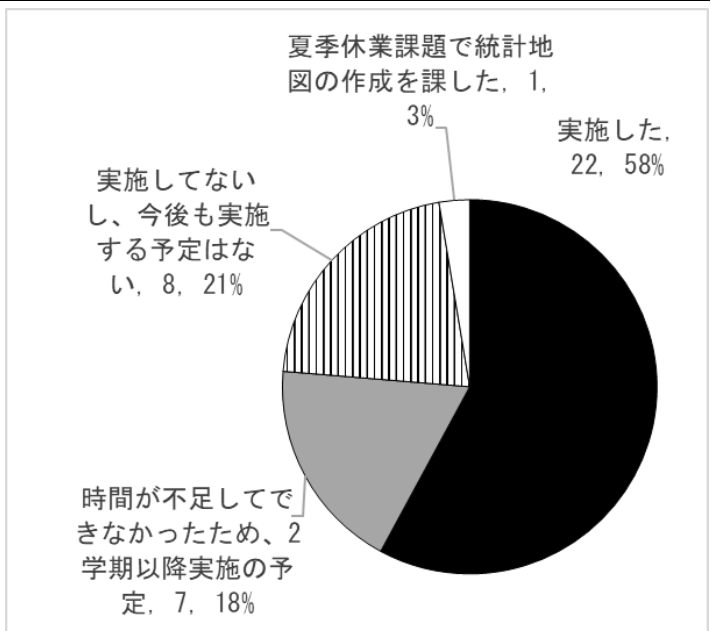


8 作図演習実施の有無

(Q 『地図や地理情報システムと現代世界』の授業では、作図演習を実施しましたか。)

「作図演習をしましたか」の回答については、「作図演習を実施した」が58%、「時間不足でできなかったため2学期以降に実施予定」が18%で、合わせて約8割が作図演習を実施あるいは実施予定との回答でした。この結果は、「地理総合」での、地図の作図技能の重要性を、多くの先生方が理解していたことの反映と考えます。

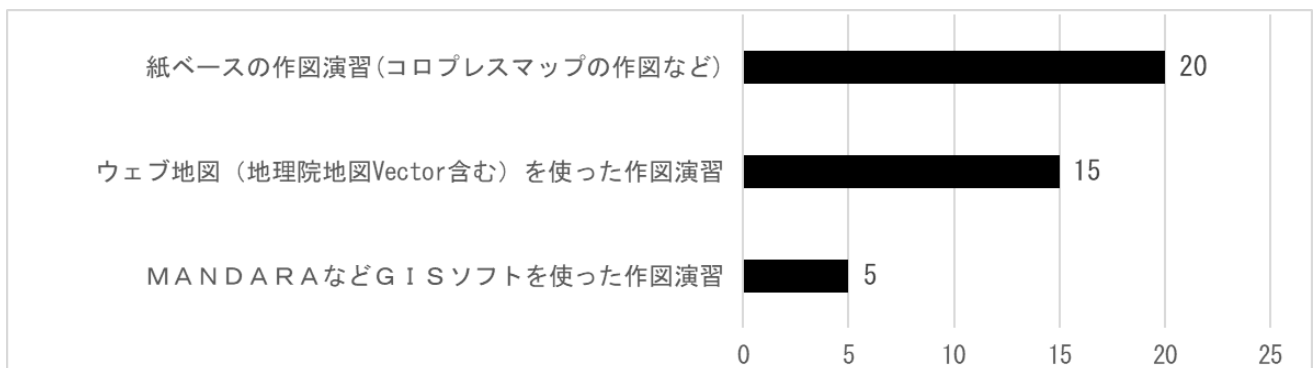
ただ一方で、「実施していないし、今後も実施する予定はない」との回答も21%と比較的多くなっていました。学習指導要領解説では、地図やGISの学習については、「作業的で具体的な体験をとまなう学習」が重視されています。こうした結果に対しては、科目担当者間で改めて、作図演習の重要性を共有する必要があるように考えます。



9 作図演習の方法

(Q 『地図や地理情報システムと現代世界』の授業で、作図演習を実施されたか、または実施する予定の先生方に質問です。どのような作図演習を実施あるいは予定していますか)

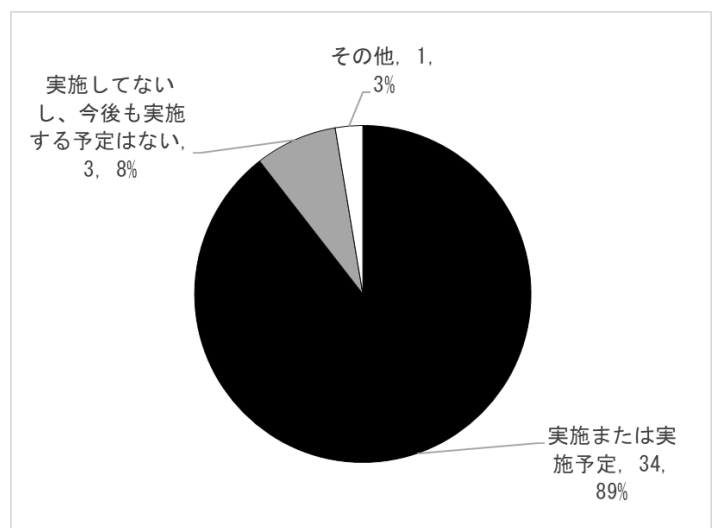
「作図演習を実施したか、実施予定」と回答した30名(夏休みの課題にしたとの回答含む)の先生方には、「具体的な作図演習の方法」についても、複数回答可で回答をいただきました。その結果、最も多かったのは、20名の「紙ベースの演習」との回答でした。次に多かったのは15名の「ウェブ地図を使った作図演習」との回答でした。「MANDARAなどGISソフトを使った作図演習」との回答も5名いました。「紙ベースの演習」が最も多かったのは、地理総合では、高校に入って初めて地図学習やGISに触れる生徒が多いことから、比較的平易な形態が選ばれたためと推察します。なお「ウェブ地図を使った作図演習」をしたとの回答には、道案内図や統計地図などの地図を製図させる本格的な作図演習をした(予定する)ケースと、地理院地図などで3D地図や色別標高図などを描画させる「作図」の演習をした(予定する)ケースと、様々な作図レベルのケースが混在していると考えます。今回の調査では、実際に行われていた演習が、学校と生徒の実情に対応した適切な作図レベルになっていたのか否かまでは分かりませんが、「ウェブ地図を使った作図演習」する先生方には、「あくまでも学校と生徒の実情を見極めて、適切な作図レベルで演習を行う」という視点も、改めて共有する必要があると考えます。



10 地理院地図の演習実態

(Q 『地図や地理情報システムと現代世界』の授業では、『地理院地図』の操作について演習を行いましたか)

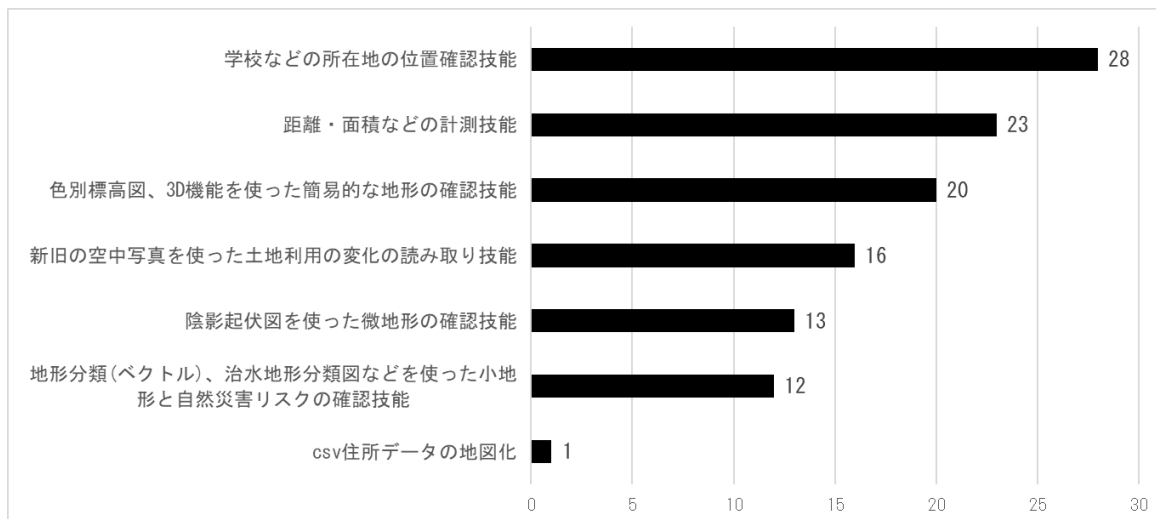
「地理院地図の操作演習をしましたか」の回答については、大半の89%が、「実施または実施予定」と回答していました。この結果は、学習指導要領解説や教科書の中で、地理院地図が汎用性のあるウェブ地図として扱われていることの反映として読み取れます。また一方で、「実施していないし、今後も実施する予定はない」との回答も8%ありました。この回答に対しては、科目担当者間で改めて、地理院地図の操作演習をする意義を、共有する必要があると考えます。



11 地理院地図の演習技能

(Q 『地図や地理情報システムと現代世界』の授業で、地理院地図の演習を実施されたか、または実施する予定の先生方に質問です。どのような技能について演習を実施あるいは予定していますか)

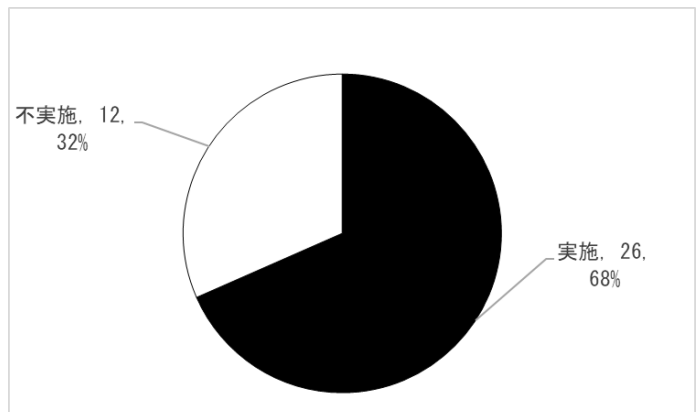
地理院地図の演習を「実施または実施予定」とした34名の先生方にはさらに、「具体的な演習技能」についても、複数回答可で回答していただきました。ここでは半数以上の先生方が、「学校等の位置の確認」、「距離・面積の計測」、「色別標高図、3D機能を使った簡易的な地形の確認」、「新旧の空中写真を使った土地利用の変化の読み取り」など比較的平易な技能の演習を回答していました。一方で「陰影起伏図を使った微地形の確認」、「地形分類、治水分類図などを使った小地形と自然災害リスクの確認」の演習など、読図に比較的時間のかかる演習については、回答が少なくなっていました。地理総合でも、後半の「地形環境と人間生活」や「生活圏の諸課題や防災」などを扱う場面では、とくに後者のような技能が有用となります。そのため科目担当者の間では改めて、それらの技能を含め、地理院地図の操作技能を生徒に習得させる重要性を共有する必要もあると考えます。



12 アクティブラーニングの実施

※次の「13」の回答結果からまとめました。

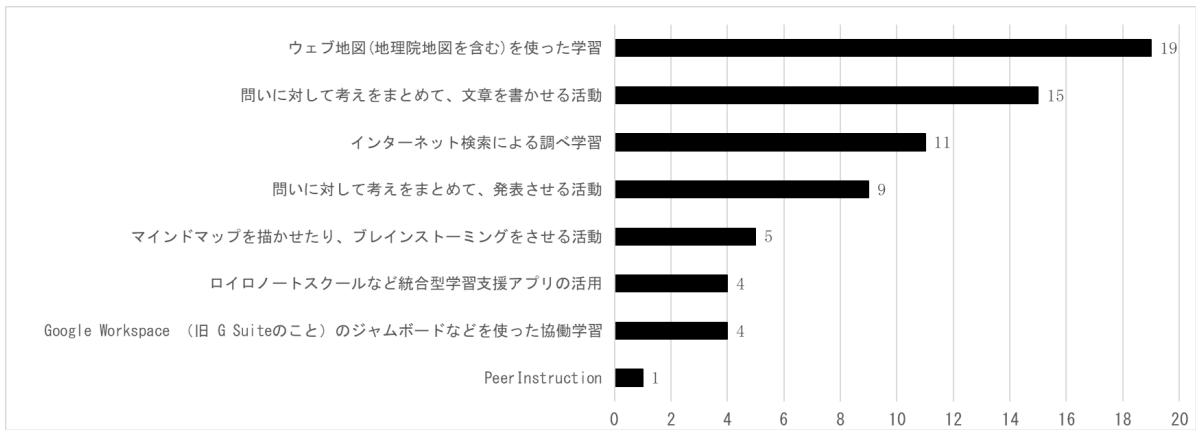
アクティブラーニングを「実施」したと回答した先生方は比較的多く 68%でした。地理総合でも、他科目と同様、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の一つの視点として、また「思考力」などを高める手段として、アクティブラーニング的手法が有効とされていますので、そのことを反映した結果と考えます。ただ一方で、アクティブラーニングを「不実施」と回答した先生方も32%いました。今回の調査では、「不実施」の先生方が、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の視点として、「それ以外の方法」をとっていたか否かは分かりません。しかし「不実施」の先生方を含め、科目担当者が、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」にむけた何らかの手立てをとる必要があることは今後も、共有していく必要があると考えます。



13 アクティブラーニングの実施内容

(Q 『地図や地理情報システムと現代世界』の授業で、アクティブラーニングを実施した先生方のみご回答ください。アクティブラーニングはどのような手段で行いましたか)

アクティブラーニングを「実施」と回答した 26 名の先生方には、複数回答可で「具体的な実施内容」も回答していただきました。その結果、比較的多かったのが、「ウェブ地図(地理院地図を含む)を使った学習」、「問いに対して考えをまとめて、文章を書かせる活動」、「インターネット検索による調べ学習」、「問いに対して考えをまとめて、発表させる活動」という回答でした。他には、「マインドマップを描かせたり、ブレインストーミングをさせる活動」、「ロイロノートスクールなど統合型学習支援アプリの活用」、「Google Workspace のジャムボードなどを使った協働学習」、「Peer Instruction」など、様々な手法やツールの回答がありました。これらの手法やツールは、様々な場面に応じて使用することで、生徒の多角的多面的な思考を促す有効な手立てになると考えます。ただ半面、新規性のある手法やツールの利用は、それ自体が目的化してしまうことも多々みられます。科目担当者間では改めて、「アクティブラーニングを、地理学習の軸である地図やGISを中心に据えて計画する視点」を共有する必要があると考えます。

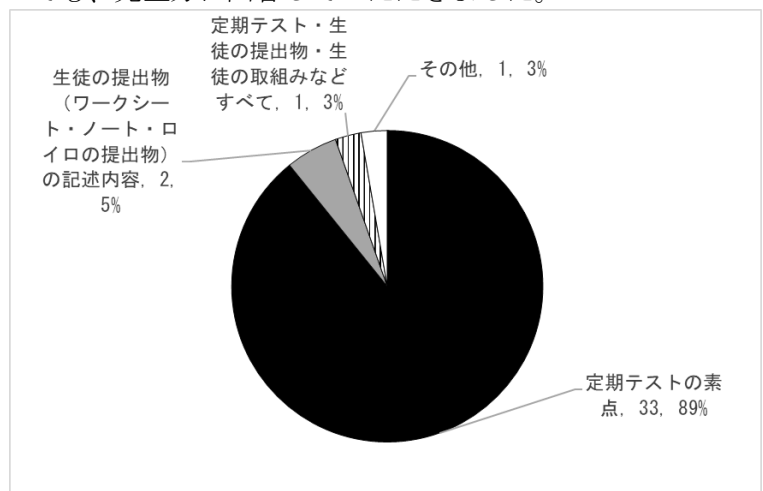


14 「知識・技能」の主な評価方法

(Q 『地図や地理情報システムと現代世界』の単元で、『知識・技能』の観点の評価したときの、主な評価方法を教えてください。)

今年度は、地理総合の新設と同時に、すべての科目で3観点での評価が開始されました。そのため、今回の調査では、「導入単元」の評価実態についても、先生方に回答していただきました。

まず「知識・技能の主な評価方法」の回答については、大半の89%の先生方が、「定期テストの素点」との回答でした。これは主に「定期テストの素点」を、「知識・技能」の定着を見取り、生徒の学習と教師の指導の改善につながる有用かつ分かりやすい評価資料と判断した先生方が多いためと考えます。他には、「生徒の提出物の記述内容」などの回答もありました。

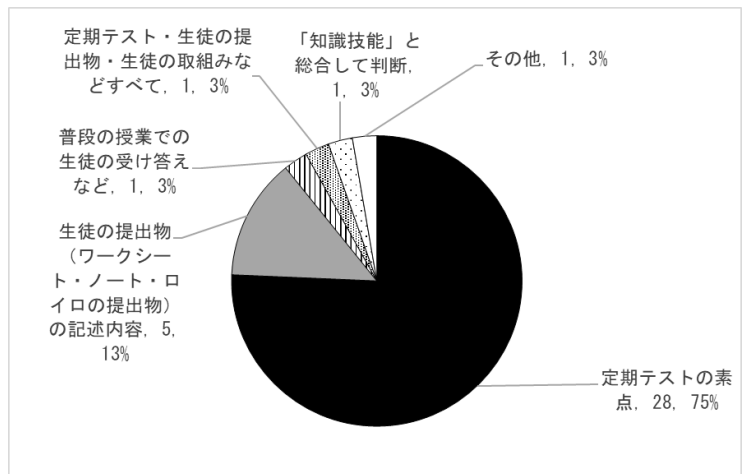


15 「思考・判断・表現」の主な評価方法

(Q 『地図や地理情報システムと現代世界』の単元で、『思考・判断・表現』の観点を評価したときの、主な評価方法を教えてください。)

「思考・判断・表現の主な評価方法」の回答については、74%の先生方が、「定期テストの素点」と回答していました。これはとくに「定期テストの素点」を、「思考・判断・表現」の定着を見取り、生徒の学習と教師の指導の改善につなげる有用な評価資料と判断した先生方が多かったためと考えます。このことの反映が確かに今年度に入り、各方面で様々な地理的事象とその課題などについて生徒に考察・論述させたり、概念的理解を問うたり、複数の事象の相関を考察させたりといった、思考問題を提案する先生方も増えています。ただ一方で様々な先生方から、「思考問題がそもそもどのような問題なのか分からない」との理由から、本来は「知識・技能問題」としたほうが妥当なのではないかとの問題を、「思考問題」としている先生方も比較的多い、との話もよく聞きます。改めて今後、「思考問題」とはどのような問題なのかといった研修を、科目担当者を中心に進める必要はあるように考えます。

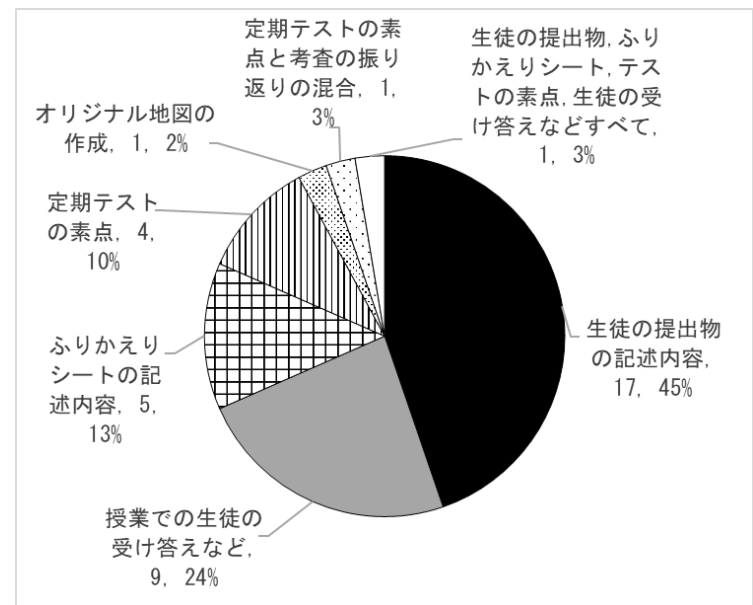
なお次に、主な評価方法で比較的多かったのは、16%の「生徒の提出物の記述内容」との回答です。この評価方法では一般に、公平性や客観性の確保を考慮した基準づくりが難しいとされます。この評価方法をとる科目担当者の間ではとくに、そうした基準づくりを行う重要性を、共有していく必要があると考えます。



16 「主体的に学習に取り組む態度」の主な評価方法

(Q 『地図や地理情報システムと現代世界』の単元で、『主体的に学習に取り組む態度』の観点を評価したときの、主な評価方法を教えてください。)

「主体的に学習に取り組む態度の主な評価方法」の回答については、45%の「生徒の提出物の記述内容」が最も多くなっていました。他に多かった回答では、24%の「授業での生徒の受け答えなど」、13%の「ふりかえりシートの記述内容」、10%の「定期テストの素点」がありました。他の観点と比べ、生徒の日常的な学習状況が分かる評価方法を回答する先生方が多くなっていました。これは「生徒の日常的な学習の取り組み」から、「主体的に学習に取り組む態度」の定着を見取り、生徒の学習と教師の指導の改善につなげる有用な評価資料と判断した先生方が多い



ためと考えます。

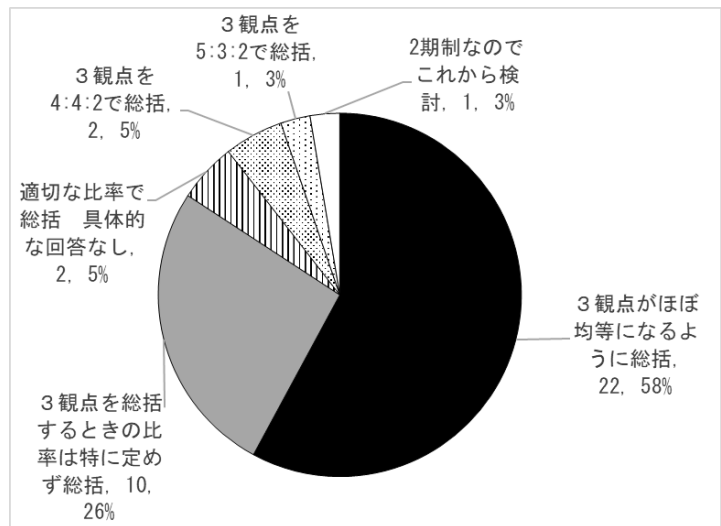
ただ、実際のこの観点での評価では、様々な先生方から、「何を評価すればよいのかわからない」、「単に、生徒のやる気の評価すればいいのでは」との、困惑とも誤解とも思われる声を聞くことも少なくありません。本来、この観点での評価は、学習の前と後を比較して、生徒の中に「調整力を働かせながら粘り強く学習に取り組む姿勢が育成されたか」、「学習活動の成果を、のちの学習や自分の生活に生かしていることの変容がみられたのか」を見取る視点が重要とされています。したがってこの観点での評価については、どのような評価方法をとるにせよ、科目担当者間で改めて、「生徒の学習活動全体をふりかえる工夫をした上で、学習前後の変容を見取り評価する」という視点を、共有する必要があると考えます。

17 「評価の総括」の方法

(Q 『地図や地理情報システムと現代世界』の単元で、3観点の評価を総括して評定を出したときの、先生のとられた方法を教えてください。)

「3観点での評価を総括して評定を出す方法」の回答については、最も多かったのが58%の「ほぼ均等になるように総括」でした。これは多くの先生方が、学習指導要領の趣旨に沿う形で、3観点での評価をバランスよく(1:1:1の比率に近くなるように)総括していたことを反映しています。ただ半面、「3観点を総括するときの比率は特に定めず総括」という回答が26%を占めていた他、「3観点を4:4:2で総括」5%、「5:3:2の比率で総括」3%といった回答もありました。様々な先生方から、「3観点の評価を総括する

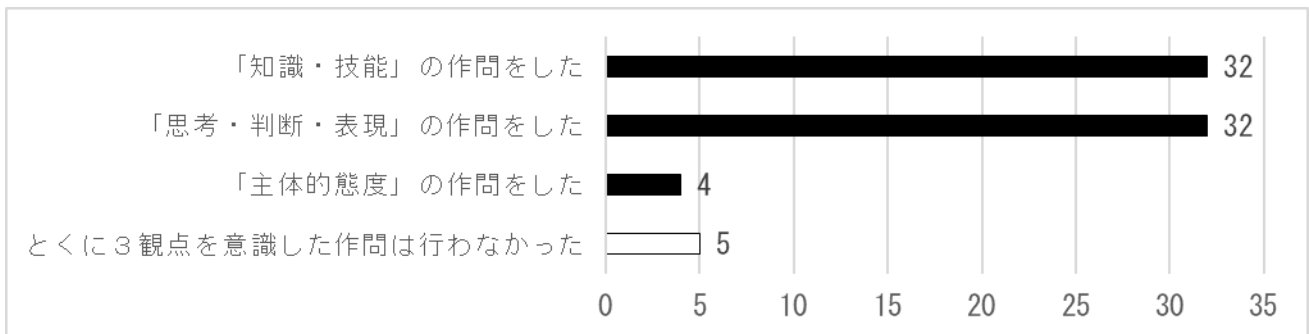
際は、学年末にバランスがとられれば、年度途中の単元末(内容のまとめ)や学期末では、必ずしも3観点の比率が均一にならなくてもよい」と誤解している科目担当者もいると聞くことがあります。おそらくそうした誤解も、それらの回答の一つの背景であると考えます。こうした点を踏まえると今後は、科目担当者間で、3観点の評価の総括では、「基本的には、単元末(内容のまとめ)あるいは学期末、年度末の評価場面ごとに、3観点での評価がほぼ均等になるよう総括する」といった原則を改めて共有する必要があると考えます。



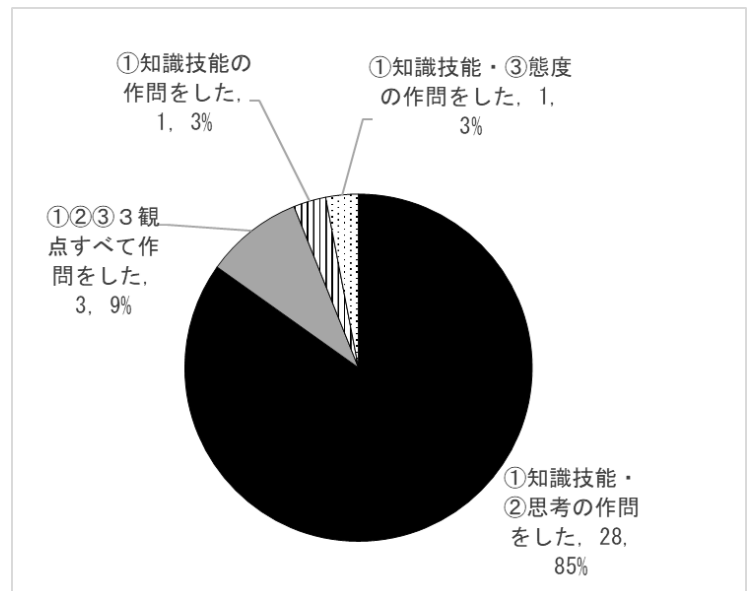
18 3 観点を意識した定期テストの作問

(Q 『地図や地理情報システムと現代世界』の単元について、定期テストで、3 観点を意識した作問を行いましたか)

複数回答可の「定期テストで、3 観点を意識した作問を行いましたか」の回答について、最も多かったのが、32 名ずつの回答があった「知識・技能の作問」と「思考・判断・表現の作問」をしているとの回答です。一方、「主体的に学習に取り組む態度の作問」をしているとの回答は4 名と少なくなっていました。質問項目の「14」と「15」で、「知識・技能」と「思考・判断・表現」の主な評価方法として「定期テストの素点」の回答が多かった結果と、ほぼ対応していました。なお「3 観点を意識した作問をしなかった」と回答していた先生方も5 名いました。この結果に対しては、科目担当者間で改めて、3 観点での評価は定期テストの作問内容にも及ぶことを、共有する必要があると考えます。



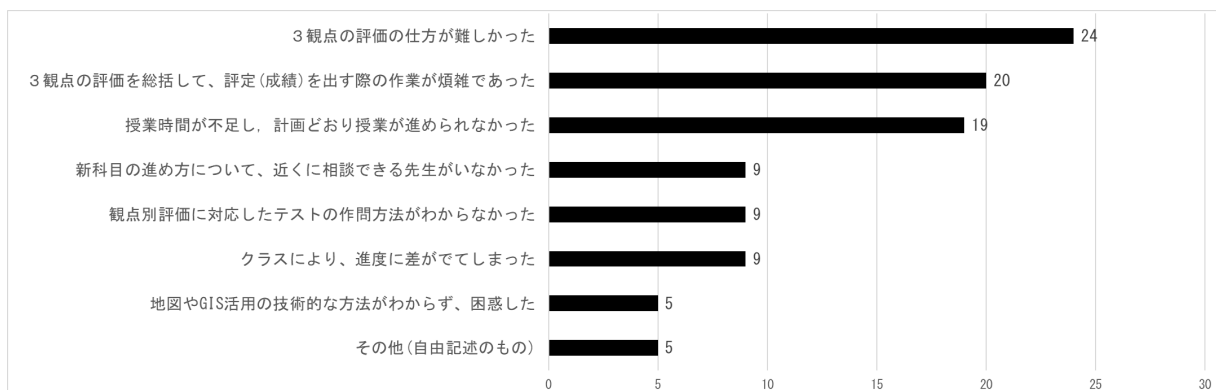
また「3 観点を意識して定期テストを作っている」とした33 名の先生方の回答について、作問構成を分析すると、「知識問題＋思考問題」の組合せで作問している先生方が最も多く、大半の85%の回答となっていました。



19 地理総合「導入単元」での「課題」

(Q 『地図や地理情報システムと現代世界』の単元について、1 学期の授業を振り返ったときに先生が課題と感じたものは何ですか)

先生方には、選択式(一部自由記述)で、『導入単元』で『課題』と感じたものについても回答していただきました。「とくにない」の1名、「無回答」の1名を除く、36名の先生方からいただいた回答は、次の図のとおりです。とくに多かったのは、回答数24名の「3 観点の評価の仕方が難しかった」、20名の「3 観点の評価を総括して、評定を出す際の作業が煩雑であった」、9名の「観点別評価に対応したテストの作問方法がわからなかった」など、「3 観点での評価」にかかわるものでした。また次に多かったのが、回答19名の「授業時間が不足し、計画どおり授業が進められなかった」、9名の「クラスにより、進度に差が出てしまった」など、「授業の進度」にかかわるものでした。さらにこれらの課題への不安を反映しているのか、「新科目の進め方について、近くに相談できる先生がいなかった」との回答も9名いました。科目担当者は、とくに「評価」と「進度」を中心に、様々な課題を抱えているようです。このような結果は当然、それらの課題について科目担当者を支援する体制が必要であることも示していると考えます。



その他の回答(自由記述のもの)については、以下のとおりです。ここでは「ICT環境についての課題」、「授業の進め方についての課題」を挙げる先生方がいました。

【地理総合導入単元の「課題」(自由記述のまとめ)】

1 ICT環境についての課題

- ・1年生で入学してすぐのため、ICT環境が整わない生徒もいた。
- ・生徒の所有物であるスマホを使用している授業は、持たない生徒の対応や充電や容量など問題を感じている。
- ・本校はBYOD方式でデジタル端末を支給してもらっているが、4月にはデジタル端末の準備が間に合わず、デジタル端末を前提とした授業の展開が難しかった。
- ・地理院地図の有用性はわかったが、経済的理由や家庭状況、生徒自身の意欲が著しく低い場合、有用性を教示することは困難だろうとも感じた。

2 授業の進め方についての課題

- ・各種検診やオリエンテーション、学校行事による特編、大会引率による自習などで授業時間の不足や差が生まれました。2単位ゆえに、差を埋めづらかったです。また、GISの実習などは欠席すると大きな差が生まれるのでコロナ禍の現在、この点は課題に感じました。

20 地理総合「導入単元」での「収穫」

(Q 『地図や地理情報システムと現代世界』の単元の授業を通して、先生がもし『収穫』と感じたものがあつたら、お聞かせください)

先生方には、自由記述で、『導入単元』で『収穫』と感じたものも書いていただきました。大半が「GISや地図の活用」に関する内容でした。地理総合の授業を通して、生徒にGISの基礎知識に触れさせられたことや、実際にウェブ地図に触れさせる中で「作業的で具体的な体験をともなう学習」を実現できたこと。また生徒・教員ともに、ウェブ地図の操作の平易さ、地域分析の有用性への気付きがあつたこと。地図への興味付けができたなど、多くの「収穫」があげられていました。

回答内容を見る限りでは、地理総合の導入単元の「単元を通したねらい」である「地図・GISの有用性を理解させる」点については、先生方の達成度は高くなっているようです。

【地理総合導入単元の「収穫」(自由記述のまとめ)】

1 GISの活用について

- ・GISに実際に触れることができた点は有意義であつた。
- ・GISの基礎的な知識を伝えることができた。
- ・今年度、地理の教育実習生がいたため、GISの単元は教育実習生に担当してもらつた。近年、大学の授業や実習でもウェブ地図等を用いたGISの授業が充実しているので、現場の教員が新たに教材研究して授業を準備するよりもとても作り込まれていて有効であつたし、現場の教員としても学びが多かつた。
- ・新しい地図の機能を知ることができた。
- ・生徒にもGISを使用させることで、理解度が上がった
- ・教員自身がGISやウェブ地図の使い方を覚えることができた
- ・生徒の持つ端末にアプリを導入させることができた。
- ・Google Mapや地理院地図への生徒の食いつきが想像よりもすごく、休み時間にiPadでGoogle Earthを開いて世界を探検している姿をみたとき、地理の楽しさを生徒に伝えられたかなと思ひました。
- ・海上交通や鉄道、海底ケーブルなどのウェブ地図の存在を知り、生徒に提示して興味を持たせることができた。
- ・GISやウェブ地図に生徒が予想以上に興味を示し、自分たちで意欲的に操作することで理解が深まつた。教員自身が地理院地図の使い方を把握することができた。
- ・地理院地図・RESASの操作を生徒に行かせたが、興味を持った生徒が多くいた。他の単元と組み合わせて用いてみたいがアイデアが浮かばずにいるのが現状です。
- ・地理院地図などのウェブ地図の存在を知ることができた。
- ・地理院地図について、生徒が当たり前のように使うようになった。
- ・地理院地図による色別標高図は地形と土地利用を把握するのに役立つ。
- ・地理院地図の演習では、学校周辺の地域を概観しようというテーマで実施したが、積極的に取り組んでいる生徒が多かつた。操作については大半の生徒が意外と問題なく取り組んでいた。
- ・地理院地図の使用方法は、思っていたよりも難しくなく、生徒も興味深く取り組んでいた。
- ・地理院地図の有用性がわかつたこと。

2 紙地図の活用について

- ・紙の地図に対しても、問題を与えるとグループごとに熱心に考えて取り組んでおり、多くの生徒がもつてい

る“地図に対する抵抗感”を和らげることは、「できた！」という経験や地図と多く触れ合うことだと改めて感じました。

- ・中学校で言葉だけを覚えた生徒が多かったため、地形図の読み取りをとおしてなぜその土地利用となるのかを軸に基本を押さえたところ、地理に興味をもってくれた生徒が増えました。ウェブ地図等を必ずしも使用しなくても、少し授業を工夫すれば興味関心を引き出せることがわかりました。来年度地理総合を担当する場合には、ウェブ地図等を利用した授業作りを実践してみたいです。

3 授業の進め方について

- ・教員間での教授・評価方法や教材の共有が進んだこと。各教科書会社のデジタル教材が豊富であり、これらの利活用が進んだこと。